

中国視察研修団に参加して

北海道町村会主事

鈴木 祥寿

【はじめに】

2007年9月12～21日まで、中国視察研修団に参加してハルビン・北京・西安・上海の4都市を10日間の日程で研修を行い、各地で文化、人々と触れあうことができた。また、同行した団員との経験は非常に大きな財産となった。

中国に対し、漠然としたイメージしか持っていなかった自分にとつては、驚きの毎日と日々、中国という国をもっと知りたいと強く思うようになった。

以下、各都市での研修概要について紹介していきたい。

【ハルビンにて(研修1～2日目)】

自分にとってのはじめての中国。昔よくテレビで見た自転車の大群を想像していたが、自動車社会、高層ビル、整備された道路には正直驚いた。まさに、急成長の中国を一目で感ずることができた。

ハルビンでは、まず黒龍江省政府への表敬訪問。今年で北海道と黒龍江省の友好提携21周年となり、今後

の技術研修や様々な研修や青少年の相互交流の必要性について、お話をいただいた。私の職場も、海外の交流ではないが、道内で交流人事を行っており、自分も2年間、道内の町へ派遣の経験がある。派遣先での現場を経験することは、その問題点や地域事情を感じることができる。まして、文化の違う国際的な交流は、まさに相互理解を深めるために重要であり、国際交流の必要性を改めて感ずた。

続いて、IT産業のイーストを訪



天安門広場

問。1992年に黒龍江大学と日本イースト株式会社との合弁企業であり、日本留学経験を持つ黒龍江大学出身の帰国者たちが、対日ソフトウェア開発業務を行うというソフトウェア会社である。

会社内では皆、日本語が堪能で驚いた。また、日本の文化、ビジネスマナー等についても研修をしている。しかし、言葉や習慣の違いからくるコミュニケーション不足などが原因で発生する納期や品質に関する問題はあるようだ。

【北京にて(研修3～5日目)】

さすがに、今年のオリンピック開催都市とあって、高層ビルの建設ラ



黒龍江イースト



慈恩寺境内にある大雁塔



大雁塔頂上からの風景



頤和園



天壇公園の折念殿

ツシユ、4〜5車線もある広い道路は正に首都。ハルビンの街並みでさえ、近代的だと思っていたが、ここに来ると、もう中国のイメージは完全に払拭された。

このような都会的な市街地であるが、故宮、頤和園、天壇、万里の長城などの世界遺産があり、風景の美しい自然景観も楽しむことができた。



万里の長城

これら世界遺産のスケールの大きさには脱帽。このような名所はある程度の知識や時代背景など知っていないと魅力がわからないのではないかと思っていたが、目にした瞬間、「すごい」と自然に声が出てしまった。万里の長城は、どうやってこんな場所に建物があるのだろうか、どうやって建設したのだろうか、興味が湧き、いろいろな時代背景などを知りたくなり、その他の世界遺産についても、一から歴史を学びたいと思った瞬間であった。

また、中日友好協会での表敬訪問では李氏から近年の国内事情についてお話をいただいた。その際、最近、食の安全性について、中国の輸出品に対し様々な問題が起きていることを聞いてみた。中国でも、所得が上がるにつれて、中国国民が食に対する安全性を求める傾向にあるよう



兵馬傭坑博物館の第1号坑

だ。国内でも環境の問題も含め重要な問題と捉えているようだ。

今年のオリンピックに向けた、今後の更なる発展とそれに伴う様々な問題に注目していきたい。

【西安にて(研修6〜7日目)】

ここでの一番印象に残ったもの。今回、中国で一番印象深い場所である「兵馬傭坑博物館」。世界遺産であるが、私はほとんど知識がない中、(正直、博物館と聞いていて一般的なものかと思っていた。)入館した瞬間、まずはその数の多さ、広さに圧倒された。6千体を超える兵馬傭は、一体一体表情や服装、装備などが異なっている。発掘場所は、全体が弧を描く屋根の建物で覆われており、展示方法のスケールの違いに、ただ驚くばかりであった。

自分の中では、この場所が中国の

象徴であると感じた。スケールの大きさが日本と桁違い。今回の研修で一番衝撃を受けた場面であった。

【上海にて(研修8日目〜最終日)】

研修最後の都市となる上海では、企業訪問と日系企業ビジネスマンとの昼食の機会を設けていただいた。

訪問した企業は、ダイナックス。本社が千歳にあり、オートマチックトランスミッション用のクラッチ板を主力とした製鉄等を製造。

中国では輸入車に対する規制緩和と生活水準の向上によってモーターリゼーションがはじまろうとしている。今回の視察でも実感したが、中国国内の車の多さはもちろんだが、高級車も目にする機会が大変多く、自動車関連産業が大きく発展しているのは容易に想像できる。

しかし、工場内での人材教育は大変であるようだ。中国人は会社への帰属意識が低く、賃金の高い方へあっさり鞍替えしてしまうらしい。1年間で総入れ替えの状況で、日本では考えられない。そんな中、中国人社員に技術を教えることも、そう簡単にはいかないようである。工場見学の際、一つの例として説明を受けたが、簡単な工程でも、地面に矢印

があり、間違えないようになっていた。今後は月単位から日々対応管理へ、教育をしなくてもよい仕組み、ルールづくりを検討していくようだ。

人件費を安く抑えたとしても、品質に問題があつてはどうしようもない。低賃金による大量の労働力確保の裏にはこのような状況もあることがわかった。

企業訪問終了後、日系ビジネスマンとの昼食懇談会は苫小牧埠頭株式会社・石田氏、安心理研和材・森下氏と懇談。話を聞いてみると、中国人とビジネスパートナーとして、日本の常識とのミスマッチにはかなり頭を悩ましているようだ。日本国内でさえ、地域の差で食い違うことがあると思うが、まったく文化の違う国とビジネスを行う大変さを知った。また、都市部と農村部の生活格差、

上海と開発の遅れている内陸部の生活格差のお話をいただいた。今後のこの格差は解消されていくのか、更に大きくなっていくのだろうか。

【最後に】

「百聞は一見にしかず」。これが中国派遣研修に参加して一番感じたことであつた。世界遺産の感動、訪問させていただいた皆さんのお話は、中国事情をより知ることができ、また、中国という国をより知りたいと思う機会であつた。

残念ながら、事前調査が不十分であつたため、もっと、時代背景や歴史を知っていればもっと感じるものが深かつたのではと思う。

現在、中国は何かと台風の目となっている。豊富な労働力を安価で提供し、外国企業の製造部門を呼び込むことに成功し、世界の生産基地となった。日本での様々な商品で「中国製」の文字を目にしないことはないくらい。

発展する巨大な中国市場をねらい、道内も農産物、水産物等、これをチャンスに輸出増大に向けて取り組んでいる。北海道の安全な食品は、安全問題に揺れる中国で消費者の心をつかんでいくのだろうか。しか

し、国内で安全な食品を輸出して、安全性に疑問のある食品を中国から輸入しているという批判もある。

様々な問題はあるのだが、中国と、どううまく付き合っていくかが、今後の北海道発展のための課題であり、今こそ、新たに地元、北海道を見直す事も必要だと感じた。中国は何を求めているのか、その点を、北海道がどう応えられるのか、アピールする必要がある。近年、北海道にもアジア諸国からの観光客が増加しており、交流する場も多くなると思う。これからは、今回の経験を生かし、相手側の文化や慣習を理解した上で、北海道の良さを伝え、北海道の発展に貢献できればと思う。

今回、中国派遣研修に参加したことは、自分の価値観を見直す、いい機会となった。今まで、いかに視野の狭い観点で物事を見ていたのかと感ずる。今後、少しでも国際的な視野で物事を考えていくことができればと思う。

帰国後は、新聞等で「中国」の文字を目にすると、つい気になり読んでしまう。テレビの番組があれば必ず見るようになっていた。いままです諸外国に目を向けていなかった自分であるが、これからは、中国のみならず、他の国々にも目を向け、またこのような機会があれば積極的な交流を行いたいと思う。

国際交流とは無縁だと思つていたが、今回の研修を通して、国際交流の必要性に気づいた。交流はお互い違う立場や文化を理解し、こんな考え方もあるのだと気づかせてくれる。国際交流は、重要な国際貢献にも繋がるのではないかな。

また、短い期間でも、現地に赴き現場を目にすることが一番であろう。これは、国際交流に限らず、仕事でも現場を知ること、経験することが状況を把握する最善の策であると思う。

今後、この研修で終わりにするのはなく、これを機に、様々な交流を続けることができればと思う。初めて見た中国への感動や強い好奇心を忘れることなく、自分の視野を広げ、北海道と中国の交流で何か役立てることができるよう考えていきたい。また、数年後、このような機会があれば、また、違った視点で、中国を見ることができればと思う。数年後の中国はどうなっているのだろうか。今後の動向に注目していきたい。



千歳に本社があるダイナックス